2025 年　初夏号　No.62　（2025 年 6 月 17 日発行）

只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>

今年の冬は最大積雪深325㎝で 1980 年からのアメダスでの観測史上 4 番目の多さを記録しました。今年の只見の春の山は、残雪とオオヤマザクラの花、ブナの新緑が一度に楽しめ、素晴らしいものでした。今は田植えも終わり、季節は夏へと向かっています。多くの生きものたちと人の暮らしが調和する只見町へぜひお越しください。

========== 開 催 案 内 ==========

【企画展】

「ブナ林の木に生かされる　雪国のブナを極めるⅡ」

3年前の企画展「ブナを極めるⅠ」では、地史的なブナ林の広がりの移り変わりから、種としてのブナの生態、さらにブナ林に依存する多様な生き物まで幅広く解説しました。続編としての本企画展では、ブナ林の木材や燃料としての使われ方を中心に、雪国の暮らしと文化の礎となってきた姿を振り返るとともに、現代の生活にブナ林の樹木を活かす取り組みについて解説しています。6月30日まで開催していますので、お誘いあわせの上ぜひご見学ください。

■会期　2024/11/9（土）～2025/6/30（月）

■会場　ただみ・ブナと川のミュージアム　2階　ギャラリー

「豪雪に育まれた豊かな川辺の生態系」

越後山脈に位置し、日本有数の豪雪地帯にある只見町。長い年月をかけて豪雪や雨水の浸食を受けて出来上がった大小様々な渓流・河川の周辺は、生物多様性の宝庫となっています。本企画展では、只見町の生命の源ともいえる川辺について展示・解説します。一体どんな渓流・河川があるのか、川辺にはどのような森林が発達し、どのような野生動植物がいるのか、人の暮らしとの関り、さらには、次世代にこの豊かな自然を引き継ぐことの重要性を共有します。

■会期　2025/7/19(土)～2025/12/1(月)

■会場　ただみ・ブナと川のミュージアム　2階　ギャラリー

【自然観察会】

	夏のブナ林観察会
開催日時	2025 年 6 月 28 日（土） 13:30～16:00
観察地	ただみ観察の森 梁取のブナ林（学びの森）
集合場所	明和公民館（只見町小林字上照岡 1300）
定員	20 名 ［要事前申込、締切日 6/27（金）］
参加費	高校生以上 500 円、小・中学生 400 円、町内在住の小・中学生、高校生 100 円
持ち物	長靴、雨具、飲み物、軽食

参加を希望される方は只見町ブナセンター（0241-72-8355）までお申し込みください。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ 活 動 報 告 ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

【令和6年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会】

1 月 26 日（日）、令和6年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会が只見公民館で開催され、町の助成を受けて調査研究を行った5グループの研究者がその成果を発表しました。

渡部町長からは、「本日の発表が、私たちが直面する課題を乗り越え、町の発展や地域の活性化に向けた新たな可能性を切り開くものであることを期待しています」と挨拶しました。町内外から 31 名の聴講者が集まり、発表後は、活発な質疑応答も行われました。各調査研究の概要をご紹介します。

・「環境 DNA を用いた只見町の奥地における魚類多様性評価」

深野 直孝、村上 弘章、野口 慶司、片山 知史 (東北大学院)、春本 宜範 (アクアマリンふくしま)

環境 DNA（水中に存在する生物が放出した DNA を採取して分析することで、そこに住む生物を特定する技術）を用いて、只見町の淡水魚類相を明らかにする調査研究を行いました。田子倉湖と沼ノ平で調査した結果、合計 26 種の魚類の存在が確認されました。この結果は、生態系保全活動や外来種駆除の効果を評価する貴重なデータとなります。

・「只見地域の尾根に分布するキタゴヨウの生育環境と森林構造」
近藤博史、酒井暁子（横浜国立大学・大学院・環境情報研究院）
　只見町の主要な森林の一つであり、尾根沿いに分布するキタゴヨウ林がどのような森林であるかを調査研究しました。その結果、標高 300～800m の範囲で、北西向きの尾根や急斜面にキタゴヨウが多く分布していることが分かりました。また、調査地ごとに林の構造や木の成長パターンが異なることも確認されました。

・「アカミノアブラチャンの遺伝的特徴と果実色変異」
數間るび（新潟大学大学院）
　町天然記念物に指定されている落葉低木のアカミノアブラチャンの遺伝的特徴や果実の発達過程を調査研究しました。暗赤色や赤みがかった緑色など、さまざまな果実色があり、不健全種子率が高いことがわかりました。これは遺伝的な多様性は低い値を示したことや、集団内に血縁関係のある個体が複数存在していることに起因すると考えられました。

・「森林の育成過程で発生する間伐材による只見町内エコシステムの構築と課題」
大橋慎太郎（新潟大学農学部）、関原光優（新潟大学農学部）
　只見町では、森林育成で発生する間伐材を薪による熱エネルギーとして活用する取り組みが進行中です。森林資源を地域内で有効活用するための戦略を検討しました。町内の薪ストーブ利用者へのヒアリング、温浴施設での排湯温度測定を行い、間伐材を薪ボイラーや家庭用薪ストーブのエネルギー源として活用し、燃焼灰を農業肥料として再利用することで、地域のエネルギー自給率と農業生産性を向上させる環境にやさしい地域づくりを提案しました。

・「只見の木製民具にみる樹種選択」
鈴木　海都（信州大学大学院　総合理工学研究科）、土本　俊和（信州大学工学部）、井田　秀行（信州大学教育学部）
　民具に使用されている木材の樹種を特定し、民具の種類による樹種選択の違いやその理由を明らかにすることで、民具から見た樹木利用の伝統的知識を再評価することを目指しました。ジザイカギ、ヨコキネ、タテキネ、コウシキなどの民具を調査したところ、各民具には用途に応じて特定の樹種が選ばれていました。これらの結果は、ユネスコエコパークとしての人と自然の関わりの再評価に貢献するとともに、民具の学校教育などの場で幅広い活用が期待できました。

　最後に、紙谷ブナセンター館長からは、「ユネスコエコパークの 3 つの目標、特に地域振興に関わる発表が充実してきている」と講評しました。

【自然観察会】

豪雪のブナ林観察会

２月 15 日（土）、豪雪のブナ林観察会が余名沢の森（深沢集落）にて行われ、23 名が参加されました。また今回の観察会には、昨秋の観察会にも同行された箕口秀夫博士に講師をつとめていただきました。森の中を歩きながら、途中で見つけた樹木の特徴や積雪の層について解説していただきました。積雪断面観測を実演するために、前日の 14 日に雪を掘って準備しました。雪の層によって硬さや質感などが異なることを、参加者は実際に触って確かめました。2 月に入ってから寒波が続いていましたが、この日は久しぶりの快晴で山々の景観も楽しめました。

雪どけのブナ林観察会

３月９日（日）、雪どけのブナ林観察会が余名沢の森（深沢集落）にて行われ、14 名が参加されました。今回の観察会のタイトルは「雪どけ」でしたが、今年の只見の冬は雪が多く、ほとんど融けていない雪の上を進んでいきました。2 月の観察会とは別のルートで進み、ブナの冬芽や、雪で枝が垂れ下がったスギ、コナラ、ミズナラ、ウダイカンバ、ゴヨウマツ、アカマツといった木々の様子を観察しました。さらに、カミキリムシの穿孔痕や、キツツキの仲間がつけたであろう穴など、動物の痕跡を見ることができました。途中で雪が降ることもあり、好天ではありませんでしたが、それほど寒くは無く、雪も締まって歩きやすい観察会でした。

野生植物の花観察会

４ 月 26 日（土）に黒谷入地区で春の花観察会を開催し、町内外から 16 名の方が参加されました。当初は深沢地区で開催予定でしたが、残雪が多かったため観察地を変更しての開催となりました。春らしい気持ちの良い天気の中、カタクリ、キクザキイチゲ等の春植物が花を咲かせており、フクジュソウは一面の絨毯となって咲き乱れ、参加者からは感嘆の声が上がりました。絶滅危惧種のユビソヤナギの観察も行い、河川環境との関係も理解を深めました。また、雪食地形と残雪、ブナの新緑、オオヤマザクラの花などが組み合わさったこの季節ならではの美しく只見らしい景観も楽しむことができた観察会となりました。

ブナ林の新緑観察会

4 月 27 日（日）に癒しの森にて毎年恒例の新緑のブナ林観察会を実施し、町内外から9名が参加されました。林内にはまだ多くの残雪があり、ブナの新緑と残雪のコントラストを楽しむことができました。

道中では、秋に落ちたヤマナシ（オオウラジロノキ）の果実や、ブナの花を観察しながら目的のブナ林まで進み、あまり人の手が入っていない原生林に近い自然林と、伐採後に再生した二次林を観察・比較した後、戸板山眺めで咲き始めのオオイワウチワの花を楽しんでから折り返しました。

只見らしい残雪と新緑のブナ林を体験できた観察会となりました。

【福島藝術計画 2024「雪と歩く －冬の空、冬の森－」を開催】

3 月 2 日（日）、福島県立博物館主催、只見町ブナセンター共催で「福島藝術計画 2024『雪と歩く －冬の空、冬の森－』」のアートワークショップがただみ・ブナと川のミュージアムで開催されました。

講師にはアーティストの岩田とも子さんが迎えられ、町内外から 29 名（大人 13 名、子供 16 名）が参加されました。ワークショップのテーマは「雪」で、ブナセンター職員が野外での雪の観察、ミュージアムではとけた雪の行方を解説し、岩田さんの指導で創作活動を行いました。創作活動では、白いアクリル絵の具を指先につけて、アクリル板に降っている雪、積もった雪、とけた雪の行方などを描きました。

福島県立博物館と只見町ブナセンターでは昨年秋から今年の冬にかけて3回の子ども向けのアートワークショップを開催してきました。これらのワークショップで作られた作品について、2 月から 5 月にかけて JR 只見線只見駅舎内の待合スペースで展示をしました。

子供たちの自然体験を通して出てきた発想のもとで作られたアート作品の展示により、只見町を訪れた方へ只見の自然、人、只見線を PR する空間を作ることができました。

【―只見町ブナセンターの教育支援―】

只見町の自然や生活文化を活かした教育支援活動紹介

只見町のすべての小中学校はユネスコスクールに加盟し、将来を担う子供たちの教育のために、只見町の自然を活かした ESD（持続可能な発展のための教育）に力を入れています。豪雪に育まれた豊かな自然とそこに暮らす人々の生活文化が共存し、ユネスコエコパークに登録されている只見町は、人が自然とともに生きていく姿を学ぶのにふさわしい地域です。只見町ブナセンターは小学校のESD教育を支援することを目的に、只見小学校の先生・生徒とともに、1 年を通じて只見町の自然や生活文化を活かした教育プログラムに取り組みました。見慣れた遠くの森の木を描き、山を登ってそれらの樹木を調べ、さらに、調べた樹木が古民家に使われていることなどを学びました。令和 6 年度は、只見町は豊かな自然とそれを拠り所にした人の暮らしを考えるうえで素晴らしいフィールドであるということを確信できた1年となりました。

▲只見の自然景観を理解するために四季を通じた山のスケッチ

▲同じ場所を夏、秋、冬と描き、地形による森林の違いも学びました

▲スケッチした山に実際に登り、どのような森林があるか調べました

▲ブナ二次林では薪利用などブナ林と人の関りを学びました

◀学術調査研究で明らかになった山に生えている樹木でできた古民家を見学

◀自然と人の暮らし（道具、エネルギー）の関りをまとめ、公民館祭りで発表

【只見町ブナセンター運営委員会開催】

3 月 21 日に、ただみ・ブナと川のミュージアムにて、第 3 回只見町ブナセンター運営委員会が開催されました。委員会では、会長の挨拶の後、令和 6 年度の活動報告を受け、自然の保護・保全、地域振興、教育・人材育成、付属施設の運営について様々な面から協議がされました。

委員からは、ブナセンター活動に地域住民との関わりを取り入れ、地域に根差した博物館を目指すこと、「『自然首都・只見』伝承産品」の PR 強化や親子で楽しめる博物館の提案、駅前にあるふるさと館田子倉の利用促進について意見がありました。ご意見を真摯に受け止め、ブナセンターの今年度の事業を適切に運営していくよう努力してまいります。貴重なご意見をいただいた委員の皆さまに感謝申し上げます。

【只見の自然 只見町ブナセンター紀要 No.12 の刊行】

「只見の自然 只見町ブナセンター紀要 No.12」の販売を開始しました（価格 1,000 円）。表紙は、菅家亜紀さんの沼ノ平スサキ沼とルリイロトンボのさわやかなイラストです。

掲載内容は、森林総合研究所の正木隆先生（現在は、近畿大学所属）の巻頭言をはじめ、陸産貝類相、「ただみ豪雪林業体験・観察の森」の除間伐後の森林状況、ナラ枯れ被害の推移、特定外来生物オオハンゴンソウの分布、最新の鳥類相、についてです。

紀要は、「ただみ・ブナと川のミュージアム」と「ふるさと館田子倉」にて店頭販売を行っているほか、郵送によるご購入も受け付けております。詳しくはホームページをご覧ください。

【新任職員紹介】

杉浦（すぎうら） 尚幸（なおゆき）(ブナセンター指導員)

皆様はじめまして。今年４月からブナセンター指導員として勤務させていただくことになりました、杉浦尚幸と申します。専門は淡水の魚類で、昨年は東京農工大学で研究生をしておりました。毎日過ごしていく中で新しい発見がある只見という町で、皆様のお役に立てるよう日々尽力していきたいと考えております。

近藤（こんどう） 友太（ゆうた）(ブナセンター事務員)

４ 月よりブナセンターの事務員としてお世話になります。只見町に通い始めて 13 年、布沢に移住をして４年目になります。只見の自然についてより知見を深め、自然を活かし自然に生かされる生活について考え、取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

▼ ▼

只見町ブナセンター 令和７年度行事一覧（予定）

企画展

会期	タイトル	会場
～2025/6/30（月）	「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」	ただみ・ブナと川のミュージアム ２階ギャラリー
2025/7/19(土)～ 2025/12/1(月)	豪雪に育まれた豊かな川辺の生態系	

自然観察会

開催日	タイトル（観察地）	集合場所
2025/6/28（土）	夏のブナ林観察会 （ただみ観察の森 梁取のブナ林）	明和公民館

<編集後記> 山や河原の一部でわずかながら残雪が残る一方、緑が生い茂る時期となってきました。アマガエルなど多くの生き物が活動をはじめている中で、少しではありますがカタクリといった春植物も未だ咲いているところに只見ならではの魅力を感じております。これからは只見町の自然の魅力も一層深まる時期となっていきます。次回の企画展では、只見の自然環境を形作るものの一つである川辺の生態系に関して掘り下げていく予定となっております。どうぞご期待ください。（杉浦）

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

只見町ブナセンター

電話 0241(72)8355 **ホームページ** https://www.tadami-buna.jp
FAX 0241(72)8356 **メール** info-buna@amail.plala.or.jp
Facebook https://www.facebook.com/tadami.buna
付属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」
開館時間：9:00～17:00（最終受付 16:00）
休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12/29～1/3）
入館料：高校生以上 310 円（20 人以上は団体割引）
小・中学生 210 円 只見町在住の小・中・高校生 無料